

高齢運転者交通事故防止対策に関する有識者会議
第3回「視野と安全運転の関係に関する調査研究」分科会
議事概要

1. 開催日時等

- ・ 開催日時：平成31年3月7日（木）17：30～19：00
- ・ 開催場所：TKP東京駅八重洲カンファレンスセンター9E

- ・ 構成員等
平和橋自動車教習所副管理者 青木洋
たじみ岩瀬眼科院長 岩瀬愛子
日本大学名誉教授 大久保堯夫（座長）
科学警察研究所交通科学部交通科学第二研究室室長 岡村和子
本田技研工業株式会社安全運転普及本部 小野浩
東北大学大学院医学系研究科講師 国松志保
帝京大学医学部名誉教授 久保田伸枝
花巻中央眼科院長 高橋和博
全日本指定自動車教習所協会連合会教習教育部長 平井克昌
福田眼科医院院長 福田敏雅
日本大学名誉教授 町田信夫
近畿大学医学部教授 松本長太
警視庁交通部運転免許本部運転者教育課長 箕輪浩之
（代理出席：警視庁交通部運転免許本部運転者教育課 堀木智浩）
警察庁交通局運転免許課長
警察庁交通局運転免許課高齢運転者等支援室長
警察庁交通局運転免許課課長補佐

2. 議事進行

2. 1. 開会

※事務局より開会を宣言。

2. 2. 議事

第3回分科会での議論の概要は以下のとおり。

【視野と安全運転の関係について】

- ・ 今回の高齢者講習における新たな視野検査器の試験導入では、視野異常と事故の関係性を示す明確な根拠が得られなかったが、分析方法をもう少し詳しくできれば視野異常と事故との関係がもう少し明確になったかもしれない。今後、同様の調査研究をする機会があるならば、層別化解析ができるような被験者の属性情報、例えば、被験者が何時間運転しているか、どういう時間に運転しているかなど、様々な条件を集めた上で詳細な分析をしていくのが良いと思う。
- ・ 試験導入では視野の状況が良い人が多く、運転シミュレータの結果は差が出なかった可能性があるが、眼科における新しい視野検査器の検証実験では、本当に視野の悪い人が含まれているため、新たな視野検査スコアと運転シミュレータの事故回数との関係で有意差が出ている。今回の調査研究で、視野の悪い人が事故を起こしやすいという傾向が示せたと考えられるが、それは大きなことだと思う。
- ・ 臨床の場で視野検査に慣れた患者から視野データを取得することと、高齢者講習の場で検査になじみの無い一般の方から視野データを取得することとは全く異なる。試験導入を見ていると、もう一度検査をやり直して視野データを取得したくなるような被験者が多かった。大勢の者を一瞬で検査できる仕組みを作るのは難しい。

【今後の高齢者講習における視野検査の在り方について】

- ・ 試験導入における視野検査では、検査の精度を確保するために使用する暗幕を被ることを嫌がる被験者がいたが、暗幕を外すと照度が変わると検査に影響が生じるので、運用方法の検討が必要であると考えます。
- ・ 今回の試験導入において、高齢者講習における検査時間の問題として、時間を短くして欲しいという意見があるが、今後、高齢者講習の対象者が増えると、今まで以上に高齢者講習の時間が短くなることも想定される、そうなると、もっと簡単な方法で検査することが求められる。眼科における新しい視野検査器の検証実験での運転シミュレータ結果を見ても、重度の方のほうが事故と相関する可能性が高いということであり、重度の者をもっと短時間で選別するような方法論も必要かもしれない。

- ・ 今回の調査研究は、視野だけにターゲットを絞っているが、視野検査の結果には、反応時間や理解度、被験者の認知状況等、様々な要素が複雑に絡み合っている。高齢者講習の対象者が年々増加する中で、効率的な視野検査を行うならば、全般的な検査の中で何かに引っかかれば視野異常を検出できるような検査を考えてもよいのではないか。
- ・ 本分科会では、視野について議論しているが、視野検査に時間を割いてもいいのかという考え方もある。視野以外にも総合判断ができる高齢者講習の検査方法を考えることも一つの手ではないか。限られた時間の中で、運転を継続させてもよいかスクリーニングすることが最終目的ではないかと考える。
- ・ 運転能力は、視力、視野だけの問題ではなくて、運転者の心理等様々なものが関係してくるので、運転能力という視点で様々な観点からの検査をまとめて実施する形が良いのかもしれない。
- ・ 眼科医との連携を強化するのであれば、自動車教習所では検査機器が老朽化しているとも聞いており、古くなった機器の代わりに新たな視野検査器を導入して欲しいと思う。

【視野と安全運転の関係に関する調査研究報告書（案）について】

- ・ 委員の方々にいただいた意見を踏まえ調査研究報告書（案）をまとめたい。

2. 3. 閉会